

しろや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No.12

ひろしま歴史の小耳 12

(「広島城の50年シリーズ④」)

昭和の広島城郷土館 博物館になった天守閣

(1) 広島城郷土館

昭和33年(1958)6月1日、広島城天守閣は「広島城郷土館」(以下郷土館)という名称で博物館としての使命を持ち、新たなスタートを切りました。展示資料は復興大博覧会で出展されたものを中心に構成されており、第一層では、人文系の資料を、第二層では、自然史系の資料を展示していました。正確な時期は不明ですが、第三層では、ほどなく武具が展示されるようになりました。展示資料は、市の所有品もありましたが、ほとんどは市民や県民が郷土の文化・教育のために寄贈や寄託したものでした。第四層は催し物会場、第五層は展望室兼休憩所で、絵葉書や土産物を守る売店も設置されていました。なお、開館当時の入館料は大人20円・小人10円でした。

(2) 郷土館の展示

郷土館には、具体的にどんな資料が展示されていたのでしょうか。広島城パンフレットや「広島市政と市民」(昭和37年4月発行)によれば、第一層は、広島市の古代から近代までの通史展示が中心でした。古墳などの遺跡から出土した土器や浅野家の馬印、江戸時代の知行目録や藩札などの資



第一層では最初に城下町と天守の模型が迎えていました(昭和63年の展示風景。以降の写真も同じ)

料、広島城に大本営が設置された時の関係資料、広島の上の歴史のエポックシーンを描いた絵画などを展示していました。ただ、昭和48年(1973)に、第一層は、通史資料の展示をやめ、毛利元就の時代から、浅野氏の藩政時代、維新を経て大本営の設置された明治時代までの資料に絞った展示に変わっています。展示室内には広島城の建築材や礎



資料と共に歴史上の事件の絵画が展示されています。写真の絵画は明治4年の武一騒動のもので

石、文書や書幅、駕籠や人力車などの生活用具、武官の大礼服などが展示されていました。



武官の大礼服

第二層は、水晶などの鉱物や岩石、瀬戸内海で引き上げられたナウマン象を初めとする化石、県下を中心に採集された植物標本やオオサンショウウオやモリアオガエルなどの動物標本といった資

料が解説パネルや写真とともに展示され、自然史系博物館としての役割を果たしていました。これらの標本は開館当時から寄託されている物に留まらず、昭和37年(1962)1月末には、市内小中高等学校の理科教育の一環として採集された物が加わるなど、市民が充実させていったものでした。



第二層で目立っていたナウマン象の化石

昭和の郷土館に入館したことのある方は、ホルマリンに入った魚類や両生類が印象に残っている方が多いのではないのでしょうか。



植物や動物などの標本を展示

第三層は、室町時代の腹巻・当世具足や兜などの甲冑類や広島市の刀工が製作したものを中心に刀剣類を展示していました。



第三層の甲冑は現在よりも多かった

第四層は郷土館開館当初から催し物会場として利用されていましたが、昭和37年5月10日～6月10日には「頼家一族の遺墨展」という企画展が開催されています。その後、主に武具・書・絵画をテーマにした企画展が開催されるようになりました。また、現在も続く「広島城をかく会入賞作品展」は昭和41年(1966)に、「新春書道作品展」は昭和43年(1968)に始まり、郷土館の季節の風物詩となりました。その他、広島城一帯で開催された広島秋まつりの一環で、昭和40・42・46・47年には、菊切花秋季品評会が、四層を中心に開催されました。

(3) 博物館としての郷土館

郷土館は、天守閣内の限られたスペースを利用しているために、人文系・自然史系の資料を展示、収蔵、保管するには限界がありました。昭和39年(1964)10月9日付けの中国新聞には、アメリカ合衆国の自然史系の学者ノーマン・D・ニューウェル氏が広島市の要請で郷土館を視察し、「歴史資料と自然科学資料を分けることが望ましい」と提言したことが伝えられています。昭和42年(1967)には、人文系・自然史系の有識者を委員として構成された広島城展示協議会が発足しました。委員からは、現状の展示の改善点の指摘とともに、将来的な構想として、天守閣は、戦国期以降藩政時代の資料に重点を置いた歴史博物館とし、新たに自然博物館、考古・民俗博物館を設置し、三館をあわせて広島城郷土博物館にすることが望ましいという提言がされました。この提言などに基づき、先述した昭和48年(1973)の第一層の展示替えが行われています。ただ、人文系博物館と自然史系博物館の分割設置は新たな施設の建設が必要のために、昭和を通じて郷土館の課題となりました。昭和47年(1972)1月18日付の中国新聞には、「一人二役」にあえぐ広島城」という記事が掲載されています。記事には「一步城内にはいれば、刀剣、甲冑の類はわかるとしても、城には無縁の昆虫、植物、岩石から化石に至るまで各種の標本がズラリと並んでいる。(中略) 観覧者はときおり「どこに来たんだろう」と戸惑いを見せる。」と記されています。この課題が一部、解決するのは、年号が変わり、広島城築城400年にあたる平成元年(1989)のことです。昭和61年(1986)、市観光課は天守閣の整備について基本方針をまとめ、翌年には展示検討委員会が発足しました。さらに、業者も含めた展示設計を行った後、昭和63年(1988)

11月4日～平成元年(1989)4月14日まで、改装工事と展示替えのため郷土館は休館しました。この展示替えで自然史系の資料が外され、新たに広島
の武家文化を中心とした歴史資料を専門に扱う博物館として生まれ変わり、同時に広島城郷土館の
名称も廃止されました。

このような経緯をたどり課題も多かった郷土館
でしたが、現在に至るまでも広島県内に設置され
ていない自然史系博物館の役割をスペースが狭い
ながらも果たし、動植物・地学の標本が展示され

た広島市では唯一の施設でした。郷土館は、歴史・
考古・民俗・自然史の博物館として、戦後の広島
の子どもたちや市民の歴史や科学に対する関心
に応え、実物資料に触れることのできる身近な施設
だったといえるでしょう。(田村)

参考文献

- ・中国新聞昭和39年(1964)10月9日朝刊他
- ・広島市『広島市政と市民』昭和37年4月発行

おしえて！ 広島城博士 9

Q. 広島城の本丸にある

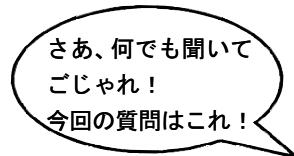
下の写真の建物跡は何？



A. これは、明治27年(1894)におこった日清戦争(日本と清=現在の中国との戦争)のときに大本営だった建物の跡なんじゃ。大本営というのは天皇が戦争の指揮をとるための機関で、ふつうは首都である東京に置かれるのだが、日清戦争のときは、明治天皇が広島に来られ、ここで戦争を指揮したんじゃ。

もともとこのあたり(本丸上段)には広島藩のお役所とお殿様の屋敷を兼ねた本丸御殿という大きな建物があったんじゃが、明治時代になって広島藩が広島県になり、お殿様のかわりを県令(のち県知事)が務めるようになると、ここに広島県庁が置かれたんじゃ。でも県庁はすぐにお城の外に移転し、かわって広島城内には軍隊が置かれた。その司令部として建てられた建物を、日清戦争のときに大本営として利用したんじゃ。

あたりをよく見ると、この建物を真ん中にし



て四角い建物の跡が三つ並んでおる。中央が大本営に使われた建物。向かって右側のやや小さめの建物跡は倉庫や使用人の控え室などがあつた付属の建物じゃ。左側に少し離れた場所にあつた建物は、昭憲皇太后(明治天皇の皇后)のお住まいとして使われたものなんじゃ。

さて、大本営が東京以外の場所に移つたのは、この広島大本営が最初で最後だったんじゃよ。だから、日清戦争が終わつたあとも「広島大本営跡」として建物は大切に残され、昔はたくさんの人たちが見学に訪れていたんじゃ。ところが、昭和20年(1945)8月6日、原爆の爆風を受けて、大本営だった建物は倒壊してしまつた。その後、建物は再建されることもなく、今では基礎の石だけがそのまま残されているというわけなんじゃ。(村)



被爆前の広島大本営跡(右)と昭憲皇太后御座所(左)の建物 右の建物の後ろに天守閣が頭をのぞかせている

私のおすすめスポット

〇〇から見える広島城（天守閣）

広島城の天守閣は、築城以来広島で最も高い建物であり、かつては市内の様々なところから見る事が出来ました。しかし、今日では高層建築が多くなり、遠くから天守閣を見ることが難しくなりました。しかしながら、場所によっては天守閣を今でも遠望することができます。天守閣を見ることが出来るこんなスポットでの楽しみ方はいかがでしょう？



写真①

その1：空鞆橋の東側にある中国庭園「渝華園（ゆかえん）」から見る広島城は格別です。中国の雰囲気を感じる庭園と、その背景に写る天守閣との微妙なコントラストが、妙に絶景なのです。（写真①）

その2：広島市立中央図書館3階の広島資料室は、広島城に向かった北側が全面ガラス窓になっているので、天守閣を目前に見ながら、郷土のことを調べるネタが増えること間違いなし！ただし、夏は木が茂って見えにくいのが難点。

その3：リーガロイヤルホテルやパセーラのような高いところはいかがでしょう。店によっては、食事をしながら天守閣を見下ろすこともできますので、一層ムードがわくと思います。

その4：意外なところでは今年50年を迎える広島市民球場から天守閣が見えるってご存知でしたか？写真②は鯉城クラブという社会人野球のチームが試合をしているところですが、2階席を中心に場所によっては天守閣が見えます。ちなみにカープという名称は広島城の別名鯉城が由来となっていますので、カープを応援しながら、鯉城とカープの歴史（※）も感じながら野球観戦するのは粋かも！

（玉置）



写真②

※詳しくは、7月に広島城天守閣で開催される企画展「鯉城とカープ」をぜひご覧ください。



編集・発行

財団法人広島市文化財団 広島城

730-0011

広島市中区基町21-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成19年5月21日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月までの平日は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円（280円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ：<http://www.mogurin.or.jp/rijo.html>